



SSKW

moderato

【モデラート:中くらいの速さで(音楽用語)】

Vol.68



【特集】飛躍と創出

～各事業所施設長・所長、2016年度の抱負を語る～ …… P2-P4

- 2016 よし介工芸館 アートフェスタ『響(ひびき)展』 …… P5
- よし介工芸館分場 若草 閉所のお知らせ …… P6
- チャリティーコンサートのご案内 …… P6
- 「Samu's Voice」: 理事長コラム …… P7
- 「ますます華麗に 節子の部屋」: 西條節子さんコラム …… P7
- 「あっと!」 表紙解説 …… P8

特集 飛躍と創出

各事業所施設長・所長、2016年度の抱負を語る



倉重 達也 | 湘南あおぞら 施設長

チャレンジできる環境を!

障害者を取り巻く状況にはいろいろな課題があります。そのうちの大きなひとつは経験する機会の圧倒的な少なさです。ましてや入所施設は閉鎖的な施設として批判を一身に浴びて来た経緯があります。これを何とか払拭したいと思っています。

幸いなことに湘南あおぞらは街中に位置しており、立地条件は最高に良いところにあります。それを活かした取り組みについては毎年おこなってきました。今年度の事業についてもそ

の延長線上に計画するとともに飛躍となるような年にしたいと思っています。

湘南あおぞらは施設入所支援、生活介護、短期入所事業、日中一時支援事業の4つの事業をおこなっています。その共通した事業計画は以下の三点になります。

1. ご本人の意思を最大限に汲んだ個別支援計画の策定と実践
 2. 利用者の生活と活動の質向上
 3. 職員育成の強化
- 利用者本人の本来持っている潜在的な力と、ご家族、職員の支援を合わせて、利用者ひとり一人が生き生きと暮らせるような施設を目指していきたいと思っています。



増田 達也 | 法人事務局長

事務局新体制

2016年度より、法人事務局に【総務・経理課】と【企画課】を設けることになりました。

【総務・経理課】は、石塚課長を中心に、主に下記を担当致します。

- ① 総務（労務管理、保険、各種請求・報告）
- ② 経理（予算、決算）
- ③ 女性活躍推進

【企画課】は、石川新課長を中心に、主に下記を担当致します。

- ① 事制度改革
（コンサルティング導入検討、給与規程、人事考課制度）
- ② 人事（採用、研修）
- ③ 社会福祉法改正対応

- ④ 後援会（事務委託）
 - ⑤ 専門支援（看護、心理、栄養）
 - ⑥ 地域貢献
 - ⑦ 広報（ホームページ、モデラート、パンフレット）
 - ⑧ 情報管理（パソコン、マイナンバー等）
 - ⑨ 理事会の議題管理
（理事会後の県・市・法務局・労基署等への申請・報告）
- 【総務・経理課】の③、【企画課】の①③④⑤⑥は、新たな業務となりますが、各部署と連携を取りながら、円滑に進めたいと思っています。

また職員の定年は、それぞれ非常勤が70歳、常勤が65歳の誕生日を迎える年度末ですが、前年度末より、施設長職は60歳の誕生日を迎える年度末定年で、以降は一般職となることになりました。役職者定年までしっかり引継を行なうことが、個人的課題です。

今年度も、どうぞ宜しくお願い致します。



河原 雄一 | 湘南ゆうき村施設長
相談支援プラザ所長

地域の拠点的な役割を担い、地域の力を高める

法人の人事異動に伴い、7年ぶりに湘南ゆうき村の施設長と今年度も引き続き相談支援プラザの所長を担うことになりました。二つの事業所の主な取り組みは次の通りです。

湘南ゆうき村

○湘南ゆうき村は障害のある方と高齢者の方々の通所の支援とヘルパーを主体とした在宅支援と地域の拠点的な役割を担ってきました。今年度全部署共通の事業目標として次の取り組みを実施します。

1. 将来を見据えた支援として、高齢化対策と地域生活を考えた支援を行います。
2. 長年積み上げられた業務を整理し無駄を省きスリム化を図ります。
3. 連動・連続性のある研修を実施し、各部署内・各部署間の

連携強化に努めます。

障害者総合支援法の改正に伴い、介護保険事業と障害福祉サービスとの連携強化が求められます。この両方の支援を20年に渡り行ってきたパイオニアとして、更なる支援の質を上げるため、全職員が一丸となり取り組んで行く所存です。

相談支援プラザ

○相談支援プラザでは、ふらっと・六会いきいきサポートセンター（地域包括）の両事業が連携し様々な利用者様からの相談を通じ、地域力を高めることを目標に次の取り組みを実施します。

1. 地域で相談を必要とするあらゆる人に相談を届けられるよう、組織体制、人員体制の整備・強化に取り組みます。
2. 「ふらっと」「六会地域包括支援センター」がそれぞれの専門性や強みを活かし、地域や利用者のニーズに柔軟にこたえられるよう相談支援のスキルや質を高めます。
3. 地域の人や事業所等と協同、連携して支援を必要とする人を支えていけるよう、地域の困りごとの共有、つながりづくり、障がいや相談支援についての理解促進に取り組みます。



佐藤 貢 | よし介工芸館 施設長

原点回帰 ～初心にかえる

2015年度のよし介工芸館のテーマは「想いをカタチに～第二章」でした。

私たちのまわりには目には見えない大切なものがいっぱいあります。ところが目に見えないためそのままになってしまったり、気付かずに通り過ぎて行ってしまうものも少なからずあると思います。そこで利用者の想い、職員の想い、よし介工芸館にかかわってきた人の想いを丁寧に受け止め「カタチ」にしていこうというのが2015年度のテーマでした。これは2月11～13日に行なった「よし介工芸館アートフェスタ2016 響（ひびき）展」でひとつのカタチにできたと思っています。もち

ろん作品展がすべてではないのですが『作品を通じ、準備を通じ、開催を通じ、目に見えない「こころ」という作品を感じ合うモノ』（よし介工芸館職員）であったと自負しています。

さて、2016年度のよし介工芸館ですが新しい体制の中でのスタートになります。作業の再編をしたり、日課の見直しをしたり、職員の業務の見直しをしたりするなかで、私たちが考えなければならない支援の考え方、職業倫理、職員間の連携などを改めて見直す機会になると思います。今まで当たり前になっていたことや新しく考えなければいけないことをひとつひとつ丁寧に初心にかえって検証して行きたいと思っています。歴史のあるよし介工芸館と、新しく作っていくよし介工芸館…。たくさんの人たちのわくわくした顔が見える場所になる様に頑張っていきたいと思っています。

2016年度
藤沢育成会
組織図

施設長職
課長





佐藤 敏彦 | 湘南だいいち 施設長

「こう・どう・しん」を スローガンに

湘南だいいちが開所して3年目に入りました。開所当時より、次の4点を基本指針として2年間取り組んできました。

- ・ひとり一人が有する力に着目し、発揮できる可能性の拡大と機会の確保に努めます。
 - ・保護者・家族と共に歩み、関係機関との連携・協働を積極的に進めます。
 - ・各事業の役割・機能を果たすために、法令遵守と専門性の向上に努めます。
 - ・地域社会の一員としてコミュニティへの積極的な参加により地域活性化等の向上に寄与します。
- 3年目に入る今年度は、推進力を高めていきたいと思っています

ます。そのためのスローガンとして「こう・どう・しん」で取り組んでいきます。

「こう」は「考える」と「交える」です。

職員一人ひとりが、支援や事業を考え、自由な発想や意見を交えて共通認識・理解を深めていきます。

「どう」は「動く（かす）」と「道」です。

いくら良いアイデアが出て、それが動かないことには進みません。1ミリでも、1歩でも動かす力や勇気が必要です。また、利用者、家族、保護者、地域のニーズはそれぞれ違います。そのニーズにこたえるためには、新しい道も開いていく必要があると思っています。

「しん」は「振り返り」と「心」です。

考え、意見を交え、事を動かし、振り返る。自分たちの成果と課題をきちんと分析、把握しながら、次の1歩の材料にしていきます。

このサイクルを職員一人ひとりが心に置き、今年1年邁進したいと思っています。



伏見 康一 | 湘南セシリア施設長 みらい社施設長

特色を活かした支援の実行

今年度より湘南セシリアとみらい社の施設長職を拝する事となりました伏見康一と申します。どうぞよろしくお願致します。法人入職22年目となりますが、湘南セシリアは今回で3度目の配属となります。何より1年目から私を育てて頂いた場所ですから、今度こそは利用者様、ご家族様への恩返しの時だと想い馳せております。みらい社初めての配属です。湘南セシリアにいた時、休憩時間等に社員さんに元気に声を掛けて頂いたので勝手ながらあまり初めてという緊張感はなく、むしろわくわくしております。両所の重責に背筋が伸びる思いではありますが、利用者様、ご家族様、職員一同とともに楽しく元気に過ごしていきたいと考えております。

さて、湘南セシリアは、いわば「法人の原点」だと感じてお

ります。今年で施設設立28年目を迎えます。つまり28年分の嬉しかった事、辛かった事、出会い、別れ、夢、感謝などが溢れていることと思います。我々はその重くて深い思いを受け継ぎ、凛として取り組んで参ります。先々の利用者皆様の暮らし方を考え、作り上げ、やがては障がいあるなしに関わらないその人のための社会作りが出来るように取り組みます。

またみらい社においては、社員さんの生産・就労活動を通じて自立した日常生活が営める事ができるよう、職員のみならず関係機関や地域の方々とも連携を深めて取り組んで参りたいと考えています。またみらい社の事業としては、一般の会社で働く事を目的とした事業と、社会的就労としての働く場としての事業との住み分けを行い、事業の目的をわかりやすくしていきます。その為には実習支援、求職活動、工賃引き上げ等の取り組みも求められてくる事と想い巡らせています。

暮らす事と働く事は連動しているものですから、双方を一体的に携われる小職の役割は貴重な任務と心得ております。特色を活かして日々、支援に全力を注いでいく所存であります。



志賀 信道 | サービスセンター ばる 所長

一人一人の地域生活を支える

今年度より、サービスセンターばるの所長を務めさせていただきます事となりました。新しい部署で、新しい世界を見て行きたいと思っております。

今まで私は入所施設と通所施設で、勤めてきました。その経験の中で、入所施設からグループホームへ移行した方や、在宅からグループホームへ移行して日中活動の場に通う方が何人もいらっしゃいました。また、休みの日に移動支援を使い余暇を楽しんでいる利用者様を見てきました。今の時代、

地域移行・地域生活という言葉はどこに行っても良く耳にします。ばるは開所当初、制度が整っていない頃から、先駆的に地域生活を支えてきており、常に新しい試みと地域生活のサポートを色々なかたちで行ってきています。法人のパンフレットにも載っている“100人いれば100通り”の言葉通り、子ども達、グループホームの利用者様、ヘルパーを利用している利用者様それぞれの生活スタイルがあり、人生があります。それを一人一人丁寧に診ていく事の難しさと楽しみを、スタッフと一緒に共感・体感していきたいと思っております。

また、今まで私が勤めていた事業所を利用されている比較的障がい重い方々が地域生活を送るためには、どのようなサービスや支援が必要なのかを考えながら、新しいものが生み出せていければと思っています。



2016 よし介工芸館 アートフェスタ

知音 ひびき 展

春の訪れよりも一足早く、よし介工芸館ご利用者の作品を皆様にご覧いただきたく、2月11日～13日の3日間に渡り、藤沢駅近隣のギャラリーにて数年ぶりに単独作品展を開催いたしました。本紙でも展示した内容を、紹介いたしますのでご覧ください。

ビーズ

小さなビーズを一つひとつ

丁寧につなぎ合わせてできた

ビーズ作品は、一つの作品としては目立

たないものですが、複数の作品と一緒に展示し

物語を作っています。そして、見る人がその物語を

楽しんでくれることを願っての展示です。“モノづくり”

と“モノがたり”、作品を見ていただく時にはとても大切な

要素です。そして変形窓へのビーズ作品の展示、サルパドール・

タリ氏が表現する“柔らかな時計”のような形状の窓に、これまでのビーズ活

動の歴史を刻むかのように時計の針を付け加え、そこにビーズ作品を飾り、本家とはコンセプトの異なる“柔らかな時(とき)”

という印象を持ていただけるような展示もありました。

10数名のご利用者が、“一本一本の糸の全てに気持ち”

“機織り”を込めて織りあげた作品を組み合わせ、“想

い出”と“希望”が交錯するような迫力のある作品や、暖かな春の訪れを感じさせるような色とりどりのバック、ブックカバーなどの展示をしました。

またフェルト作品は天井からつるし、太陽の光をいっぱい浴びながら、都度、作品の表情を変えることも魅力の一つでした。

絵画

個性があふれんばかりの絵画作品。力強い絵

から繊細な絵まで色とりどりの絵画をギャラリース

ペースだけでは無く、屋外にも並べご来館の方々のお出

迎えを致しました。また、“題名のない作品展”と称した企

画では数点の作品を「無題」として展示し、ご来場の方々に題

名を考えて頂きました。今回は展示作品を見るだけでは無く、“作

品”との対話、コミュニケーションをとっていただきたかったの

です…。ご来場いただいた方々から、一つの作品に50を超える

題名をつけていただき、よし介工芸館ではできなかった、作品を50

通り楽しむことができたのは、ご来場いただいた皆様のおかげです。



今回初の作品展ですが、多方面にわたり本当に多くの方々の御協力をいただきながら開催することができました。また、遠方から御来場いただいた方、一つ一つの作品を丁寧にご覧いただきながら楽しんで頂いた方々へ感謝申し上げます。次回の単独作品展は、11月末に“織りおりの心展”を予定しています。今回の作品展の良かった点を活かし、皆様からいただいたご意見を基に、よし介の作品達の魅力でもある、ニコリ・ホッコリ、あたたかいメッセージをお届けし、展示を通して機織りの作品達が、皆様をあたたく包み込んでくれることと思います。ぜひ、遊びに来て下さいね。

よし介工芸館分場 若草 閉所のお知らせ

よし介工芸館分場 若草は、平成28年3月末をもって閉所しました。

若草は1988年4月に地域作業所「若草工房」として開所して以来、27年間にわたり、近隣の方々との集いや、軽作業活動の場等として活動してまいりました。多くの方々の笑顔、お気持ちがたくさんたくさん詰まっている場所でしたので、長きにわたる歴史と想いを大切にしていきたいと思っております。これまで同活動場所へのご理解、ご協力を賜りましたこと深く感謝いたします。誠にありがとうございました。



藤沢育成会チャリティーコンサート

大庭山賊男合唱隊

藤沢育成会は障がいのある人達が地域の中であたりまえに豊かに暮らしていける事を願いつつ、毎年チャリティーコンサートを企画して参りました。今年度は大庭山賊男合唱隊の皆様をお迎えし、コンサートの運びとなりました。『笑って泣けて感動が伝わるコンサート』と題して、楽しいコンサートをお送りします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



2016 7.16(土) 藤沢市民会館 大ホール

開場 13:00 開演 13:30 入場料 1,000円

演奏曲目 ★地上の星 ★年下の男の子 ★木遣り 他

- ◆ 主催・共催・協力 社会福祉法人藤沢育成会後援会「いずみ」 藤沢育成会家族連合会「いつわ会」 社会福祉法人藤沢育成会
- ◆ 後援 藤沢市 藤沢商工会議所 藤沢市社会福祉協議会
- ◆ チケット取扱い 湘南あおぞら及び藤沢育成会関係事業所
- ◆ チケット販売協力店 湘南薬品ダイヤモンド薬局 ☎ 0466-22-4676 湘南薬品片瀬山薬局 ☎ 0466-26-3940
お茶・のりコバヤシ辻堂店 ☎ 0466-34-0123 お茶・のりコバヤシ大庭店 ☎ 0466-88-3221
湘南あおぞら内 ☎ 0466-25-5551 ※チケット販売▶4月15日より
- ◆ お問い合わせ

Samu's Voice ⑤

社会福祉法人藤沢育成会 理事長 石川 修



<ノーマライゼーションの心>

いつの頃からか「子どもに苦勞を掛けさせない…」が充満するようになった。十分なものを与え、十分な環境を整え、充足した暮らしをさせるのが親の務めと言われるようになった。

日本が戦後の復興の兆しを作った時代に子どもだった私はつぎはぎの靴下や兄弟共有の文房具など今では考えられない環境だった。さらに特別だと思ったのは10人きょうだい。20歳も違う兄や姉が大学生、働く姿を見て育った。熱い時代でもあったようで家庭内でさまざまに論議するきょうだいを訳も判らず見ていた。社会を垣間見ることが子どもの頃からしていたんだと思う。何もかも充足する環境はなかったが、思い通りにはならない社会を見て育った。

その年代のはやり歌に「若いという字は苦しい字に似てるわ…」とあった。「苦勞をいとわず」とか「若いうちの苦勞は買ってでもしろ」などと言われていたが、時代と共に消えた。「苦しい」ことを頑張って成就すると充実した気持ちになるが、苦しい状態になる前に自分から降りてしまう…人を見ることが多くなった気がする。自分が求めていたものにフィットしなければ変わってしまう…。もう少し頑張れば…と周囲は見ているが、自分には無理…と苦しい状態を避けたがる傾向を感じる。人それぞれの生き方だから

とやかく言うつもりはないが、気になる社会現象だと考えている。

北欧の民話に『三匹のヤギのガラガラドン』がある。小さいヤギが吊り橋を渡ろうとするとお化けのトロールが食べにくるが、ようやく逃れて吊り橋を渡る。次の中ぐらいのヤギも同じ。そして大きなヤギのガラガラドンが渡ろうとする時もトロールが出て来るが、大きいヤギはトロールをやっつけて橋を渡るというたわいもない話だ。三匹のヤギが橋を渡るだけだが、ガラガラドンは一匹。つまり第一反抗期の小さいヤギ、思春期の中ぐらいのヤギ、そして自立する大きいヤギを著わすと童話作家・松居友氏は解説する。人はある時突然自立するのではなく、大切な成長のプロセスを経て自立する。十分なものを与えられ、十分な環境を持たされ「苦」を感じないままに様々なことが成就することは本当にまれ。普段は「苦」を克服し、「苦」を押しつける勇気をもって初めて成就することがほとんど。社会福祉の哲学という「ノーマライゼーション」発祥の地・北欧の民話はそんなことを教えてくれている。

新年度が始まり新たな挑戦が始まる。自立した法人、職員になる必要がある。



ますます華麗に 節子の部屋

社会福祉法人藤沢育成会後援会「いずみ」会長 西条 節子

貧血と金欠のお話

体重54kg⇒20才当時、つまり芋ぶとり（戦後）

体重34kg⇒只今87才、A型

さて、最近めまいがすることをドクターに訴え、血液検査。結果は貧血、つまり赤血球が足りないそう！

反省してみると、胃腸の病気をして以来、好き嫌い（食べ物に）の多いこと、われながら驚きつつ、長生きしている訳はナニゴトモ我慢しないことなのでしょう。

現在のグループリビングの共同生活（10人）の夕食は、豚肉とお魚をとり入れた満点料理なのに…。さて、そこで昼食、自由に大好きな牛肉をとり入れることにしました。コンビーフ、すき焼きうどん等々、見る見るうちに貧血は治ってきました。そのおつりは、金欠でありました。

『あっと!』 日常の中で 見つけたアート

5つのペットボトル。中には水や液体のりなど色々な種類のビーズが入っています。

新しいものが大好きな阿久津さん。

今年から隣の席になった利用者さんが持っているキラキラしたペットボトルが欲しくて欲しくて…! 何度もこっそり借りたり、羨ましそうに眺めたりしていました。そんな様子を見ていたスタッフが、ビーズとペットボトルを用意して阿久津さん専用のペットボトルを作りました。とても気に入っていただけただけで、お部屋で眺めたり、ホールで転がしたりしています。お仕事に気持ちが乗らない時も、このペットボトルと一緒に頑張ることができます。ショートステイ先でもカシャカシャして、ちょっぴり寂しい思いを紛らわしているようです。違う色味のものを複数作り、お部屋の仲間もペットボトルで遊べるようになりました。新しく、みんなで楽しめる方法を阿久津さんが見つけてくれました。（湘南ゆうき村・渡邊 美那）

PROFILE
阿久津千晶さん
湘南ゆうき村

